

銅賞 渡會 未希君
北海学園大学工学部建築学科 無時間の庭

建築は技術の集積だけではないし、ましてや芸術化された建築もどこか不安定な気分させられる。統合的要素が求められるのである。CADに染まった建築制作も、どこか悲しい現実なのである。

その中で、この「無時間の庭」はどこかなつかしい、カリカリ書いていた昔を思い出させてくれる。力強く、詩的で美しい。人間精神復活装置のような作品であり、個人的には一番好きな作品だ。ただし何かひっかかる。作為に満ち溢れているのである。この手の作品はその作為性の現陰も作品の良悪になってしまう。何かプリミティブさが感じられない。精神とは純化された空間でのみ喚起される。

利休は言った「叶ふハよし、叶いたがるハあし」と。

(文責：中山 眞琴)

